

祭りと衣装

フランスの祭りからアレンジした服装デザイン

a2200408 河内 麻子

【制作意図】

今回、コスチュームゼミでは、祭りというテーマを掲げ、自分たちの興味のある祭りについて研究し、衣装作りを試みました。私は、花の都・オートクチュール発祥の地であるパリに憧れのような気持ちを持っていました。パリでは、世界的にも有名なパリコレが開催され、今でもファッションにおいて、流行の先端であると感じます。

このような憧れの気持ちからあっても、フランス全土の祭りの衣装を調べ、人々が民族衣装を着て、歌い踊り楽しんでいるものから、アレンジしてみようと考えました。

【制作過程】

テーマの設定



資料の収集



アイデア展開



スタイル画制作



パターン制作



生地購入



制作

【服装デザイン】

スタイル1 ブドーの収穫祭……オベルネイ

レーシングを胸元に用い、袖は緩やかなフレアーにして、紐で結わえ、エプロンを付け、フォークロア調にしました。

スタイル2 カンパールの祭り……ブルターニュ地方

ブルターニュ地方は、比較的パリに近いので、パリの影響を受けており、シックな衣装が特徴です。シックさを、黒のロングドレスで表現し、レースのエプロンで華やかさを出しました。

スタイル3 ラランス村の祭り……バスク地方

ラランス村の特徴であるショールを身にまとう服装を取り入れ、エンジのエプロンとショールで調和をとり、フォークロア調にしました。

スタイル1
ブドーの収穫祭スタイル2
カンパールの祭りスタイル3
ラランス村の祭り

【考察】

卒業制作では、自分にデザインしたイメージに近づけるために、生地を選ぶのに一番苦労しました。東京・仙台・新潟を回り、生地を探して出来るだけイメージに近いものを探そうと出来たと思います。また、仮縫いを何度も重ねて、イメージに近づけるために多くの時間を費やしました。

祭りの衣装は、単に外観を飾るためのものではなく、民族の祈りや様々な思いを表現しているのではないかと感じました。制作した服装に、そうした思いが表現できたかと思えます。

そしてデザイン画を書くのは簡単ですが、服をつくる事の大変さを改めて実感しました。このゼミで、様々な事を学び、服を見る目も変わってきました。

この経験を将来にいかしていきたいと思えます。